

地域密着サービス運営推進会議 報告書

施設名：グループホーム稗原

日 時：令和 7 年 9 月 30 日(火)

14：00～15：00

場 所：グループホーム稗原 きんもくせいユニットホール

参加者：稗原コミュニティーセンター長

稗原地区自治協会会長

稗原地区社会福祉協議会会長

喜楽会会長

出雲市高齢者福祉課

グループホーム稗原(代表取締役)

グループホーム稗原(管理者)

グループホーム稗原(介護支援専門員)

<議題>

- 1.ご利用者状況
- 2.近況報告
- 3.行事報告
- 4.事故・ヒヤリハット事例報告
- 5.研修・委員会・訓練等
- 6.今後の行事・研修等予定
- 7.その他
- 8.意見交換

<議題>

- 1.ご利用者状況(令和 7 年 9 月 29 日時点)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
男性	1 名	2 名	2 名	2 名	0 名	7 名
女性	3 名	0 名	2 名	1 名	1 名	7 名
計	4 名	2 名	4 名	3 名	1 名	14 名

平均介護度…2.6

平均年齢 …83.8 歳(67～93 歳)

- ・ 8/25 男性の方(要介護 1)がご入居されました。
- ・ 8/26 女性の方(要介護 4)が退院・帰設されました。
- ・ 9/4 男性の方(要介護 3)が退院・帰設されました。
- ・ 9/29 8/23 より入院されていた女性(要介護 3)の方が退所されました。

2.近況報告

現在、2ユニットで14名の方がご入居中です。

日中は1ユニット内にて、一緒に体操やレクリエーションを行いながらお過ごしいただいています。

徐々に暑さが和らいできましたが、寒暖差が出てきたりと体調を崩しやすい時期になるため、こまめに衣類や寝具、室温の調整を行っていきます。

過ごしやすい時期となるため、室内の活動だけではなく屋外での活動時間も設けていきたいと思えます。

3.行事報告

<8月 誕生会>

8月生まれの方の誕生会を行いました。

ケーキをお出しするととても嬉しそうにされていました。お祝いの後にはご利用者様からリクエストのあったカラオケを行いました。皆様をご存じの歌が流れると、マイクを持っていない方も一緒に口ずさんでいらっしゃいました。

<9月 敬老会>

皆様の健康と長寿のお祝いに敬老会を行いました。当日の食事には、お赤飯をご用意しました。お茶の時間には、お祝いのカードをお渡しし、紅白饅頭をお出しすると皆様とても喜ばれていました。

その後のレクリエーションの時間には、パターゴルフをしたり歌を歌ったりと楽しい時間を過ごされました。パターゴルフは車椅子の方も挑戦されました。なかなかボールが入らずにじれったく感じられる方もいらっしゃいましたが、失敗しても皆様笑っていらっしゃり、楽しい時間を過ごすことができました。

4.事故・ヒヤリハット事例報告

○事故報告

・事例①85歳 男性 要介護4

(内容)

昼食後居室で休まれる。巡回時、床の上でベッドにもたれて足を延ばして座っていらっしゃるのを発見する。

(対処)

痛みや外傷の確認を行う。いずれもなし。介助にてベッド上へ戻っていただく。バイタル(体温、血圧、脈拍、酸素飽和濃度)測定を行うが異常なし。

ご本人様に理由を伺うと「落ちた」と言われる。

(ご利用者様の状況)

その後もお変わりなく、お過ごしになられる。

(原因)

ベッドサイドにセンサーマットがあった。ご本人様が下りられた時点で鳴動していたと思われるが、他ご利用者の対応等で聞き逃してしまっていた可能性あり。のちに確認すると正常に鳴動する。

(再発防止に向けて)

センサー音が鳴動した際には、すぐに対応できるように職員間で声をかけ合う。

・事例②86歳 男性 要介護3

(内容)

昼食後居室で休まれている際、センサー鳴動する。すぐにかけつけるが、訪室時ベッドサイドで

仰向けに倒れていらっしやるのを発見する。頭部がベッド足元側を向き、ズボンが足首まで下がった状態でいらっしやる。

(対処)

痛みの確認、外傷の確認を行う。腰痛の訴えあり。ただし、転倒される数日前より腰痛の訴えがあったため、今回の転倒による痛みかは不明。二人介助でベッドへ戻っていただき、バイタル測定（体温、血圧、脈拍、酸素飽和濃度）実施。

(ご利用者様の状況)

腰痛の訴えは続いたが、転倒前からの訴えだったためはっきりとした原因は不明。痛みが続いたため主治医に相談し、痛み止めが処方されると訴えがなくなる。

(原因)

居室で休まれる前にトイレには行っておられたが、再度行こうと思われた可能性あり。

(再発防止に向けて)

- ・センサー鳴動時にはすぐに対応する。
- ・すべてのご利用者様に転倒のリスクがあることを再認識し、移動しようとされる理由になる事象があれば事前に対応することを心がける。

・事例③91歳 女性 要介護1

(内容)

夕食後帰室されていたが、自ら居室より出てこられる。職員が近寄り声をかけると額部分、眉間部分に内出血ができており、鼻出血あり。ご本人様より「転んだ」と仰られる。

(対処)

痛みの確認、外傷の確認を行う。ベッドへ座っていただき、バイタル測定（体温、血圧、脈拍、酸素飽和濃度）実施。血圧が普段より高値出る。

主治医に報告し、救急外来の受診となる。ご家族様と相談の上、救急搬送にて受診。結果、鼻の奥の骨折があるかもしれないが、入院するほどではないとのことそのまま帰設となる。また、後日検査のための受診となる。後日受診され、頭部や鼻骨、異常なしとのこと。

(ご利用者様の状況)

転倒直後は額周辺の痛みの訴えがあったが、なぜ痛いのかは理解されず転倒が原因とは思われていないよう。

(原因)

転倒の原因は不明だが、ご本人様曰く「転んで顔から打った」と話される。緑内障により視野欠損があり、普段より見守り・付き添いにて移動されていた。居室内では、家具やベッド柵などに掛まりながら移動されていた。夜間は居室内を動き続けていらっしやる状態だったため適時確認していた。認知症のため、職員が到着するまで待つようお伝えするが理解していくことが難しく、お一人での移動を繰り返されていた。

(再発防止に向けて)

- ・床に畳や緩衝材の使用を行う。
- ・居室をよりホールから近い居室へ変更し、ご移動時の対応を行う。

○ヒヤリハット

・事例①75歳 女性 要介護3

(内容)

ソファの肘置きと座面の隙間部分を触っていらっしゃる。口の方に手を持って行かれたため確認すると、ソファ生地の下片を口の中に含んでおられる。すぐに吐き出していただく。

(対策)

ソファにカバーをかける。

・事例②85歳 男性 要介護4

(内容)

訪室時、ベッドサイドにあるテーブルの上に壊れた中心部が壊れたボタンがあるのを発見する。ご本人様が着用されている衣類を確認すると、ボタンが1個なくなっている。ご自身で引き千切られたよう。

(対策)

口の中に入ってしまう可能性もあるため、ボタンのある衣類は着用を中止する。

・事例③76歳 男性 要介護1

(内容)

夕食後、居室の蛍光灯が切れているのを発見される。廊下に出られ、廊下の蛍光灯と交換しようと椅子に上り外される。危ないため止めるように職員が声をかけるも止められず。居室の物とサイズが違うとご自分で確認されたあと納得し落ち着かれる。

(対策)

適時居室の照明の確認を行う。

5. 研修・委員会・訓練等

○研修

- ・8月には感染症・食中毒の予防及び蔓延の防止に関する研修を行いました。食中毒は年中危険性が高く、菌やウイルスを付けない・増やさない・やっつけるという三原則の徹底を再度確認しました。また、感染症予防を日常的に継続して行うことで、感染症拡大を最小限に抑えられる可能性が高まるため、当施設でも継続していきたいと思えます。
- ・9月は身体拘束廃止に関する研修を行いました。ご利用者様の自由な動きを妨げる行為は、身体拘束に当たるという定義のもと、グレーゾーンとなる行為が多くあり、当グループホームでも適時検討していくことの重要性を感じました。

6. 今後の行事・研修等予定

○行事予定

10月：ミニ運動会

11月：誕生会、お菓子作り

○研修・委員会・訓練等予定

10月：認知症及び認知症ケアに関する研修

身体拘束廃止・虐待防止委員会

消防避難訓練

11月：高齢者虐待防止に関する研修

7.その他

○8月27日、島根大学医学部看護学科から稗原コミュニティーセンターに実習へ来られていた2名の学生が当グループホームへいらっしゃいました。当日は2時間余りと短い時間ではありましたが、ご利用者の皆様とゲームや壁面づくりをしたり、学生、ご利用者、職員を含めお互いに質問をし合ったりと楽しい時間を過ごすことができました。孫やひ孫の年代のお二人に、ご利用者の皆様も目を細めていらっしゃいました。
貴重な機会をいただきありがとうございました。

8.意見交換

○現在ご入居者数が14名ですが、待機者などはいらっしゃいますか。

→申し込みはまだですが、問い合わせを2件いただいています。

○要介護4以上の方が4名いらっしゃると介護の現場も大変ではないでしょうか。ご自分で移動をされますか。

→要介護4以上の方の移動は全介助です。

・要介護4以上の方は増えましたか。

→1名増えました。

○事故報告、ヒヤリハットの要介護4の方は同じご利用者ですか。

→はい、そうです。

○9/29に退所された要介護3の方はご自宅に帰られたのですか、それとも入院ですか。

→入院されたままです。グループホームへの帰設が困難と判断され、退所となりました。

○ベッドからの転落等の事故やヒヤリハットが多い様に感じます。高さが適正か調べる必要があるのではないですか。

→ご意見いただきありがとうございます。原則として、ご利用者が使用されている時には最大限低床にしています。

・ベッドの高さの標準というものがありますか。

→具体的な標準は分かりませんが、当グループホームにあるベッドは25 cmまで低床にすることができます。

○ベッドはレンタル品ですか、購入品ですか。

→当グループホームはすべて購入品です。

・全てのベッドにリクライニング機能がありますか。

→いいえ。リクライニング機能があるものとないものがあります。

○事故やヒヤリハットの報告を聞く限り、現場の職員の皆さんはとても大変そうに感じます。

○転倒などでけがをされているようですが、なぜ顔を打たれるのでしょうか。

→高齢になると反射的に出るはずの手が出なくなり、顔面から打ち付けてしまうことが増えるからだと考えます。

→今回の事故報告で顔面を打たれた方は、テレビ台で打たれた可能性があります。テレビ台を取り除くことも考えましたが、ご本人様がテレビを観る時間を大切にされているので、現在も使用しています。

○高齢になると気づかないうちに痣ができていることがあります。どこでできた物かもわからず、痛みにも鈍くなるようです。

・暑さや寒さも感じにくくなるようですね。

○誕生会や敬老会のご利用者の皆様の楽しい時間の一つとなっているかと思います。

・現在の食事はどのような体制ですか。

→昼食のみ副食のお弁当を発注しており、朝・夕は手作りをお出ししています。

・食事形態は皆様同じですか。

→ご状態に合わせて変更しています。現在は、常食の方が10名、刻み食の方が1名、ミキサー食の方が3名です。むせやすい方にはとろみ剤の使用を行っています。

→あんこは好きな方が多いため、おはぎやぜんざいなどをよくお出しします。

・ご高齢の方が好きなおやつに飴やお餅も出されますか。

→飴、お餅はお出ししません。お持ちの代わりに白玉粉を使用して作った歯切れのいい大根餅や豆腐を使用したお団子を使用しています。

○現在、稗原地区のご利用者様は何名ですか。

→1名です。

○一番遠い方はどの方ですか。

→出雲と松江の境辺りの方です。

○やはり生きがいや自分の責任において行うことがなくなると認知症になりやすいと聞きます。特にこの辺りの居住者は運転や農業ができなくなったりしなくなると、急速に認知症が進行したり状態が悪化する方が多い様に感じます。

○感染症の研修を行われたようですが、最近再び新型コロナの感染者が増加しているようです。感染症の拡大防止に何か対策を取られていますか。

→換気や消毒、手洗いなどの通常の感染症予防は継続して行っています。

・面会制限がありますか。

→現在特に面会制限は行っていません。ご利用者の皆様のご高齢でもあり、遠方からの面会希望者などいつお会いしていただけるかわからないからです。

○9/26の夜に救急車が入ったようですが、グループホームのご利用者様でしたか。

→はい、そうです。

○ヒヤリハットで蛍光灯が切れていた件がありましたが、LEDに交換したほうがよいかもしれません。長期間交換の必要が無く、2026年度で蛍光管の製造が中止になる予定のようです。

→ご意見ありがとうございます。順次交換していきます。

以上

地域密着サービス運営推進会議 出欠票

開催日時 : 令和7年9月30日(火) 14:00~15:00

場所 : グループホーム稗原 きんもくせいユニットホール

議題: 1.ご利用者状況

2.近況報告

3.行事報告

4.事故・ヒヤリハット事例報告

5.研修・委員会・訓練等

6.今後の行事・研修等予定

7.その他

8.意見交換

令和7年9月30日(火)開催 運営推進会議参加者

		出欠	備考
稗原コミュニティセンター長		○	
市森自治協会副会長		欠	
稗原地区社会福祉協議会会長		○	
喜楽会会長		○	
稗原地区自治協会会長		○	
出雲市役所高齢者福祉課課長補佐		○	
グループホーム稗原職員	(代表取締役)	○	
	(管理者)	○	
	(介護支援専門員)	○	